

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第102号

## ななえ古写真物語

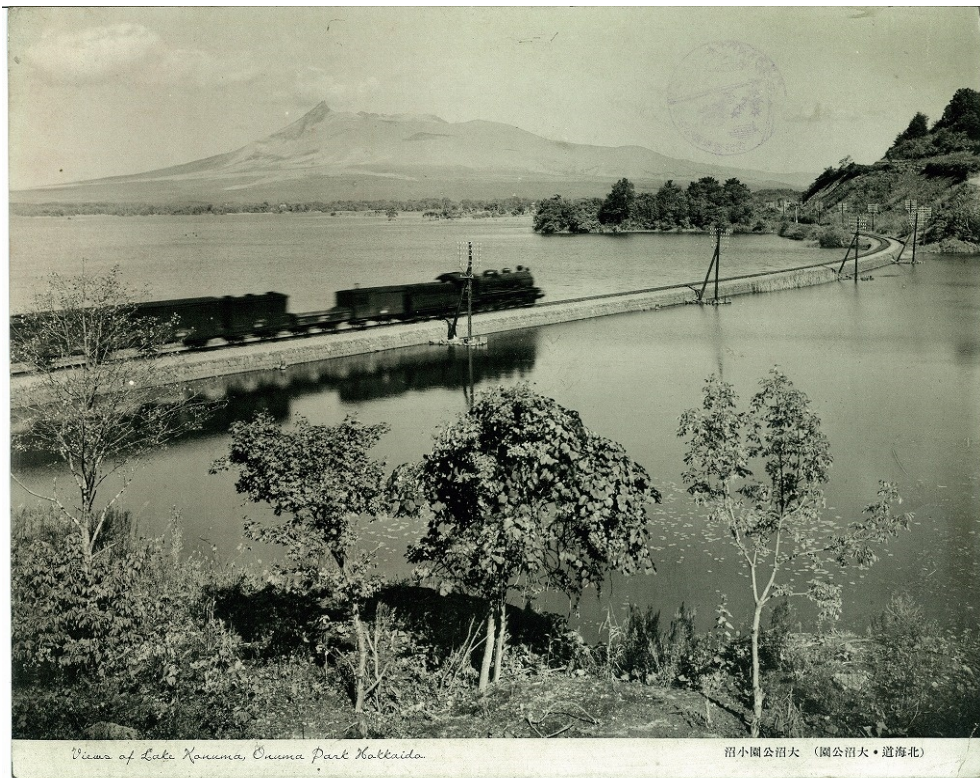
VOL. 102

### 湖上に続く軌道

大沼公園小沼

昭和10年ころか？

大沼地区 小沼



Views of Lake Kusama, Onuma Park Hokkaido.

沼小園公園大 (園公沼大・道海北)

これまで、本誌で何度か紹介してきた大沼を走る鉄道については、その歴史が明治36年までさかのぼることを触れてきました。この鉄路ができたおかげで、現在の大沼公園の賑わいがあり、以降、大沼や駒ヶ岳を背景に、SLの姿を写した絵葉書や古写真が大沼観光のお土産として売られたりと、美しい景観を紹介する方法として発行されてきました。

この写真も、そういったもので、函館市の方から「取り壊すことになった家にある古い道具など、博物館で活用できるものがあれば寄贈したい」というご好意によりお宅を訪問し、寄贈いただいた、たくさんの資料のうち一枚です。この場を借りて、お礼申し上げます。

さて、写真はというと、勇壮な駒ヶ岳を背景に、小沼の湖上に敷設された線路をSLが疾走している景色。大判の写真には「大沼公園遊覧記念」と記された判子が押されてはいましたが、残念ながら年代は記されておらず、詳細はわかりません。撮影された場所を考慮すると、昭和4年に開通したといわれる大沼函館間の自動車道路からと思われ、線路が大きく湾曲する先にある山腹には、自動車道路と思われる平場が確認出来ます。

大沼隧道(トンネル)が開通する昭和39年までは、トンネルの上を通り小沼側へ抜けるこの道が主流で、「バス道路」とも呼ばれていたようです。道の名残は、今でも断片的に残っていますが、もうそのことに気づく人も少なくなっているようです。

そこから撮影された小沼には、汽車が通れるだけの幅で埋め立てがされ、その上に線路を敷いている様子がみられ、埋め立て部分が崩れないように、石垣のようなもので側面をしっかりと補強し、電柱も根元部分だけ埋め立てていることがわかります。開発によって生じる小沼の変化を、必要最小限にとどめる努力なのでしょう。いずれにせよ、トンネルを抜けて、眼前に広がる駒ヶ岳の姿、そして水の上を走っているかのような光景は、大沼の魅力をより印象づけたと思います。

現在も、ほぼ同じ路線でJRが走っていますが、その横は大幅に埋め立てられ、並走する形で車道が作られました。線路で分断された小沼は、さらに小さくなりながらも、水鳥やコウホネを見ることが出来ます。人の利便性を高めるのと引き換えに、小沼の姿が変えられている事実を忘れずにいたいと思う風景の紹介でした。

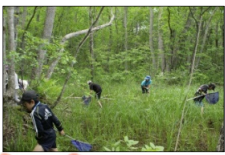


## 8日

春の探鳥会を大沼森林公園で開催しました。緑濃い森の中を3班に分かれてスタート。それぞれの講師のもとで、美声の持ち主キビタキや、オオルリの声に耳を澄まし、水辺に佇むカイツブリや、ヨシガモなどを双眼鏡を使い見つけます。

早朝から3時間ほどの散策で、約50種の野鳥を確認することができました。

大沼の森の空気に触れ、湖面にたゆたう水鳥を眺め、木々の中を駆け抜ける鳥たちに会う時間は、参加者の皆さんの目にどう映ったでしょうか？



## 28日

「水の生き物を探せ！」と題し、ジュニア探検クラブは、大沼の水辺で、どんな生き物がいるかを観察しました。草丈のある道を抜け、目的地へ。足元がおぼつかない湿地になかなか入れない子や、どんどん先の方へ網を持ち進んで行く子。捕まえた後は図鑑や本でどんな生き物が生息していたかを調べました。子供は自然の一部であると、改めて考えた1日でした。

## 常設のおもちゃが増えました。

少し趣が変わった常設展示室のお知らせを。春から、ちいさなお子様でも遊んでいただける木のおもちゃや、頭を捻る知恵の輪などを増やしました。更にメンコや独楽の遊び方などもパネルで紹介をしています。実はいろいろと苦心した手づくりのおもちゃ。素材を変えたり、色を塗り直したり。時々、手を休めて遊んでしまうこともありますが・・・。

何より嬉しいのは、その反応。展示室からカラカラと木の音が繰り返し聞こえてくると忙しさの中にも安らぎを貰えます。



### 編集後記 ~tawagoto~

芒種～梅子黄(うめのみきばむ)。当館の野草園では、終令となったナミアゲハの幼虫が、カラタチの葉を食んでいる。花が終わり、少しずつ膨らみはじめた実と、蝶になるために、その身を大きく変える幼虫。その姿に生命の素晴らしさを感じた。

一転、足元へ目をやるとドクガの幼虫がニワウメの葉を食んでいたの、申し訳ないと思いつつも殺虫剤を散布して駆除。皆さん、ドクガの季節になりましたので、ご注意を！ (やまだひさし)

## 7月の予定

1	金
2	土 テーマ展オープン
3	日
4	月
5	火
6	水 夜の博物館
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月 海の日
19	火
20	水
21	木
22	金
23	土 昆虫採集標本づくり教室
24	日
25	月
26	火
27	水 ジュニア探検クラブ
28	木
29	金
30	土
31	日

7月の休館日はありません

### 千成ひょうたん

初秋に7～8cmほどの瓢箪が風に揺れる姿を期待し、緑のカーテンに挑戦中です。種まきから1ヶ月。成長を見守る親心で育てています。



Richard ~ピチャリ~ 第102号

平成28年6月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp